

2001.1月14日(日)

藤無山ワカン&大屋ゲレンデスキー

天 候 >>> 雪/晴

波賀町に入ったとたんに雪、雪、雪である、29号線は真っ白で昨夜のうちにどっさり降ったようだ。

大屋への分岐からはとんでもない大雪であった、にも関わらずスキーヤーやボーダーが目立つ。

今日は舞と彼氏、明日香は初めてのボードを楽しむ、帰る頃にはなんとか形になっていたようだ。

我々は、午前は大雪の中をスノーシュー履いて藤無山に登る。

大阪のスーパーレディー、タシロンは何から何まですべて新品で今シーズンから山スキーも仲間入りだ。シューズはツアーブーツTR-12にワカンを付け、ピッケルを持つ姿もサマになっている。やはり雪山にはピッケルがよく似合う。

小西嬢は6日と7日に峰山で経験しているので慣れたものだが、何せ今日の寒さはリフト最終地点で-5度、おまけに視界悪しで終始雪が降っているのでとまどいがちだった。

貴司は、高価なシューズハンワグでワカンを付けて、ピッケル装備、この寒さでも全然足先は冷たくならなかったそうだ。



モンスターに囲まれて

「そろそろチェーン付けようか、オワッ、ワッ」と一瞬の出来事であったが、AWDに入れるのが少々遅くてなんと我が愛車 High Ace が 2 七もあるにも関わらずエンブレをかけたとたんに見事に 1 回転スピン。それも何処にもぶつけずにである、我が腕を疑った。橋の上が凍っていたらしい・・・ああスタッドレスが欲しい。

メンバー

大塚 Family(賢一 45 才、貴司 21 才、
舞 19 才、明日香 16 才)

福迫順一 38 才

清水健太 19 才

田代恵子 36 才

小西雅美 31 才

福迫氏はワカンを付けているものの下山ではこの深雪の新雪を滑ってやろうと、60cm のミニスキーをザックにちゃっかり忍ばせている。

年末に来た時と同じくトレースは全く無く、また根雪も少なく昨日に積もった 30 ~ 40cm 程の雪をかき分けて一列縦隊で登っていく。今日の雪は気温がよく冷えているせいもありパウダーまじりなので深雪でもあまり疲れを感じさせない。

杉林のトラバース地点も間違わずひたすら山頂を目指して登っていく。900 m を越えたあたりから積雪も多くなり杉林に付いた雪がモンスターとなっている。大自然が作り出す造形美はいつも形を変えているのでいつ見ても素晴らしい。



山頂では温度計が - 7度を刺していた。雪は相変わらず降り続けているが幸いにも風がないので早速ツェルトを2枚張って、ラーメンタイムにとりかかるがよく冷えているので手袋もガチガチに凍って思うように動かない。タシロンも雪溶かしラーメンには満足したようだ。昼食を済ませるころ、青空が見えはじめた。やはり白い雪には真っ青な青空がよく似合う。山頂に登頂プレートを飾ってきた。

下山途中に15名ほどのミックスの老年パーティーと行き違う。フル装備に身を固めてはいるがすごいパワーである、私もいつまでもあやかりたいものである。

下山後、子供達と合流し2時間券で新雪のパウダースノーを滑りまくった。今週は木曜日まで雪が降り続くそうだから週末天気さえ良ければいつになく雪とたわむれられそうだ。



人間は生まれたそのときから冒険心を持っている。
生きようとする力・・・そのなにもでもない純粹な心。
教養というシステム、社会というシステムによって競うということを植えつけられ、知らず知らずのうちに自然を愛する気持ち失われかけている、この美しい地球が失われぬためにも21世紀にすべきことは・・・。